



事業所が立ち並ぶ常盤町の一角

常盤町の新しい仲間

常盤町町会

市川 英夫

10年ひと昔といわれていますが、常盤町もその例外ではなく昔とは大きく変わってきましたが、変わらないのは、

(わたくしの個人的な思いですが) 松本市が計画する常盤町を対象とした市道拡張計画です。

しかし、常盤町には、ここ数年・数か月で私の想像を超えたことが進行しています。それは、多くの企業の皆様の支店・営業所等が進出され日中の人口を増やし、活気づかせていただいております。



令和8年9月1日現在	
総世帯数	1,338世帯
総人口	2,254人
男	1,098人
女	1,156人

駐車場の町から、企業の町に少しずつ変化してきました。(相変わらず駐車場の多い町ですが) 更に少し、心強いことですが、昨今の話題になる地震や大雨等の自然災害、また高齢化が進む町会運営になにかしら力強い味方が出来たと思います。が、各企業の皆様が町会を

援助するだけでなく、常盤町が新しく来られた各企業の皆様に町として何が出来たかを考え、企業として居心地の良い町造りをして余計な負担を掛けること無く良い関係を作りたいと思います。

【おまけトーク】

町会未登録住鳥

チョウゲンボウは以前より見かける事は少なくなりました。子育てが終わったのか、2羽しか確認出来ません。カラスにイジメられること無く、悠々と空を元気に飛び回っています。が、今シーズンは親子で飛び回るシーンがあまり見られませんでした。

思い出の四国八十八ヶ所巡礼の旅

飯田町二丁目町会

戸田 美恵子

長年の夢だった巡礼の旅。歩いて巡ることが体力的に無理と考えていたとき車で巡る企画があり、案内役の先達の方が付くので、早速申し込んだ。

1年半で4回に分けて回るとのこと。年間の予定を調整し健康に気を配り参加した。県内各地から集まった12名で実施された。私達夫婦が一番高齡だった。1回目は阿波の国(徳島県)。各札所で先達のご指導の元、納札し、般若心経、ご詠歌をお唱えし、ご朱印をいただいた。2回目は土佐の国(高知県)で一番長い大変なコースだった。途中、台風に遭遇し、カップを着用して参拝した。3回目は伊予の国(愛媛県)、4回目は讃岐の国(香川県)、



巡礼の旅の中間点 第四十四番札所 大寶寺にて

八十八番札所大窪寺で「結願証」をいただき、フェリーで和歌山県の高野山奥の院に参拝し、お礼参りを済ませることが出来た。4回に分けて16日間、弘法大師様と同行2人の旅を12名で互いに励まし合い楽しく全員で最後までやりとげられたことがなにより喜びであり、交流が今も続いている。

四国遍路の始まりともいわれる「衛門三郎縁起」についての逸話、540段の階段を登る弥谷寺。車は途中まで最後の170段は自力で登る。途中の岩肌に刻まれた阿弥陀摩崖仏や達磨仏、五輪塔、石仏が並び、1300年の歴史が凝縮されている。片側が絶壁の岩場を命綱で登ることもあった。高野山奥の院での朝餉の神事。思わず両手を合わせていた。全行程1200kmを最後まで回り終え、元気で足腰が丈夫でなければ行けなかったと感謝の一言である。残された人生、ご先祖様に感謝し、健康で笑顔で暮らしたいと思う。

第25回 第二地区盆踊り大会

8月12日 深志神社境内にて開催

まだ明るい6時半に盆踊り開始

暗くなるほどに雰囲気が増します

元気いっぱいの「子ども踊り」

桜の会の模範踊りと太鼓集団鳴桜の太鼓

出店も賑わいました

抽選会に長蛇の列ができました

今年は猛暑日が続き、いつにも増して熱中症が心配された盆踊り大会。開催当日は夕刻から暑さが和らぎ、コロナ禍での中断以降、最高の人出になりました。

源智の井戸

清掃体験と勉強会が

開催されました

8月8日・22日に第二地区子ども会育成会が主催する源智の井戸清掃体験と勉強会が源智の井戸を守り隊の協力で開催され、両日合わせて7人の小学生と保護者が参加しました。

子どもたちの夏休みに合わせて開かれたこの体験会では源智の井戸を守り隊の皆さんの手ほどきによる清掃体験をしたり、源智の井戸の歴史や特徴などについて学んだり、4種類の水の中から源智の井戸の水を当てるクイズに挑戦したりしました。参加した子どもたちは井戸の水は清掃しなければ汚れてしまうこと、井戸の水を守るための清掃がずつと行われてきたこと、井戸の水はそれぞれ違うこと等を学んでいました。

すすき川

私は65歳になってから勤務先の方針で松本検定資格を取りました。そのとき教本の中に松本城に関する記述でこんな一節がありました。

『廃藩置県後、松本城は不要のものとなり払い下げが決定となりました。入札を知り天守保存の運動を始めたのが市川量造です。(中略)市川は仲間と奔走し買取資金を集めるために、松本城本丸を会場に「筑摩県博覧会」を開催するなどして天守を買い戻しました。』

ところが、先般松本市民タイムスにこの定説に疑義を投げかける関連記事が2回に亘って掲載されました。

松本城整備課の元研究専門員の小山淳一氏は、「払い下げの見込みを以て入札の儀、一切取り消しのこと」という趣旨の明治7年当時の陸軍省通達に注目され、天守の落札は無効となり取り壊しもなくなったとみておられるとの記事でした。他の2人の方も意見を寄せられ、ほぼ同様の見方をされていました。私は小山氏の「これにより市川量造の評価は色あせない」という言葉が救いになりました。

(川上)